

**撮影領域を拡大するフルサイズミラーレスカメラ“EOS R3”を発売
最高約 30 コマ/秒の高速連写と高画質・高信頼性を実現**

キヤノンは、EOS シリーズ初搭載となる新開発のフルサイズ裏面照射積層型 CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」を搭載し、プロやハイアマチュアユーザーから求められる高い性能と信頼性を兼ね備えたフルサイズミラーレスカメラ“EOS R3”を 2021 年 11 月下旬に発売します。



EOS R3
* RF24-70mm F2.8 L IS USM 装着時

“EOS R3”は、最高約 30 コマ/秒^{※1}の高速連写と高画質を両立し、「EOS-1」シリーズで培った信頼性と操作性を兼ね備えたフルサイズミラーレスカメラです。静止画撮影時における視線入力 AF^{※2}や、追従性に優れた高速・高精度・広範囲な AF による快適な撮影を実現し、動体撮影や動画撮影を行うプロやハイアマチュアユーザーのニーズに応えます。

■ 新開発の CMOS センサーや、映像エンジン「DIGIC X」が実現する高速・高画質

新開発の有効画素数約 2410 万画素^{※3}のフルサイズ裏面照射積層型 CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」により、電子シャッター撮影時において、AF/AE 追従で最高約 30 コマ/秒の高速連写と高画質を両立しています。電子シャッターによる像の歪みを大幅に抑制するとともに、静止画撮影時に常用 ISO102400 の高感度を実現し、夜間や室内などの暗いシーンでもノイズを抑えた動体撮影が可能です。

■ 追従性や操作性を追求した先進の高速・高精度・広範囲な AF

「デュアルピクセル CMOS AF II」による、追従性に優れた高速・高精度・広範囲な AF を実現しています。また、人物、動物^{※4}（犬・猫・鳥）検出に加えて、乗り物^{※5}（モータースポーツにおける車・バイク）検出にも対応し、検出機能の向上を実現しています。さらに、静止画撮影時における視線入力 AF を搭載し、ファインダーをのぞいた瞳の動きを利用した AF 操作が行えるため、素早く撮りたい被写体に切り替えることが可能です。

■ 多様な制作ニーズに対応する動画性能

6K/60P の RAW 動画内部記録や、4K/120P ハイフレームレート動画撮影、クロップ（切り出し）なしのオーバーサンプリングによる 4K/60P 動画撮影を実現しています^{※6}。さらに、「Canon Log 3」に対応するなど、用途に応じた動画記録を可能にし、多様化する動画制作のニーズに応えます。

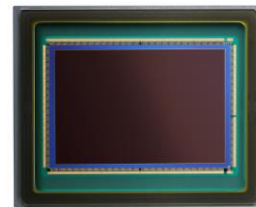
製品名	希望小売価格	発売日
EOS R3	オープン価格	2021 年 11 月下旬

※1 電子シャッター撮影時。動作条件は、2 ページ 1.の※1 に記載。
 ※2 事前に「キャリブレーション」をお勧めします。サングラスやミラーサングラス、ハードコンタクトレンズ、遠近両用メガネを使用した場合や、目の状態（目が細い/まつ毛が長い/まぶたが厚い）などの個人差、使用環境などにより、視線入力 AF が使用できないことがあります。
 ※3 総画素数約 2670 万画素。
 ※4 被写体によっては動物検出できない場合があります。また、犬・猫・鳥ではない被写体に対して動物と検出する場合があります。
 ※5 一般の乗用車、商用車、バイクは検出できない場合があります。また、車、バイクではない被写体に対して乗り物と検出する場合があります。
 ※6 6K/60P は 6K RAW (59.94fps/50.00fps)、4K/120P は 4K DCI/UHD (119.88fps/100.00fps)、4K/60P は 4K DCI/UHD (59.94fps/50.00fps)。

<主な特長>

1. 新開発の CMOS センサーや、映像エンジン「DIGIC X」が実現する高速・高画質

- EOS シリーズ初搭載となる新開発の有効画素数約 2410 万画素のフルサイズ裏面照射積層型 CMOS センサーと、映像エンジン「DIGIC X」により、電子シャッター撮影時において、AF/AE 追従で最高約 30 コマ/秒^{※1}の高速連写と高画質を両立。
- 新 CMOS センサーの高速読み出しにより、電子シャッターによる像の歪みを大幅に抑制。「EOS-1D X Mark III」(2020 年 2 月発売)の電子シャッターと比較して、ローリングシャッター歪みを約 1/4 に低減。
- 高速連写中でも電子ビューファインダー (EVF) に映像を表示し続けるブラックアウトフリー^{※2}撮影により、激しく動く被写体も見失うことなくフレーミングすることが可能。
- メカシャッター/電子先幕撮影時は、最高約 12 コマ/秒^{※1}の高速連写を実現。
- 静止画撮影時に常用 ISO102400 の高感度を実現。夜間や室内などの暗いシーンでもノイズを抑えた動体撮影が可能。
- RF レンズ使用時、レンズ側の光学式手ブレ補正機構と、ボディ内の手ブレ補正機構の協調制御^{※3}により、世界最高^{※4}8.0 段^{※5}の手ブレ補正を実現。
- 「HDR PQ」方式での静止画/動画記録に対応。また、高速でブラケット撮影を行い、カメラ内で 3 枚の写真を合成する「HDR モード」を搭載。階調性豊かな映像表現が可能。



フルサイズ裏面照射積層型 CMOS センサー

- ※1 最高速度で連続撮影可能なレンズは RF レンズ及び一部の EF レンズに限定されます。連続撮影速度は、撮影条件により低下することがあります。詳しくはキヤノン公式 HP をご参照ください。
- ※2 連写時に 1 枚目を撮影した際や、内蔵メモリーがいっぱいになった場合、あるいは、連写中にストロボの充電が切れたり、再度充電が完了した際などには、ブラックアウトすることがあります。
- ※3 「RF400mm F2.8 LIS USM」(2021 年 7 月発売) / 「RF600mm F4 LIS USM」(2021 年 7 月発売) / 「RF600mm F11 IS STM」(2020 年 7 月発売) / 「RF800mm F11 IS STM」(2020 年 7 月発売) は非対応。なお、協調制御に対応したレンズでも、お買い求めの時期により、レンズのファームウェアの更新が必要です。
- ※4 2021 年 9 月 13 日現在発売済みのレンズ交換式デジタルカメラにおいて。「EOS R5」(2020 年 7 月発売)、「EOS R6」(2020 年 8 月発売) も同じ 8.0 段の手ブレ補正効果。キヤノン調べ。
- ※5 CIPA 規格に準拠。「RF24-105mm F4 LIS USM」(2018 年 10 月発売)、焦点距離 105mm 時、Yaw/Pitch 方向。

2. 追従性や操作性を追求した先進の高速・高精度・広範囲な AF

- 「デュアルピクセル CMOS AF II」による、追従性に優れた高速・高精度・広範囲な AF を実現。
- 電子シャッター撮影時に、最高 60fps^{※1}の AF 演算およびトラッキング演算を同時に行うことが可能。最高約 30 コマ/秒の高速連写中でも精度の高い AF を実現。
- 人物の瞳・顔・頭部・胴体、動物 (犬・猫・鳥) の瞳・顔・全身検出に対応。さらに乗り物 (モータースポーツにおける車・バイク) の全体・スポット検出にも対応。ディープラーニング技術を活用したアルゴリズム「EOS iTR^{※2} AF X」の強化により、検出機能の向上と高い被写体追尾性能を実現。
- キヤノンのデジタルカメラで初めて、静止画撮影時における視線入力 AF を搭載。ファインダーをのぞいた瞳の動きに合わせて移動するポインターを撮りたい被写体に合わせ、ボタン操作をすることにより、AF フレームを素早く動かし、被写体を切り替えることが可能。
- EV-7.5 の低輝度合焦限界^{※3}を達成。肉眼では被写体の視認が難しい暗い環境下でも AF が可能。
- EOS R シリーズ最速となる最高約 0.03 秒^{※4}の高速 AF を実現。



乗り物 (バイク) におけるスポット検出のイメージ

- ※1 シャッタースピードが 1/125 以上の場合のみ。
- ※2 intelligent tracking and recognition.
- ※3 キヤノン試験基準による。静止画撮影時・F1.2 レンズ使用時・中央測距点・ワンショット AF・常温・ISO100。Defocus Smoothing コーティングを採用した「RF レンズ」を除く。
- ※4 CIPA ガイドラインに準拠して測定した AF 時間の結果から算出 (撮影条件や使用レンズにより異なる)。内部測定方法。[測定条件] 測距輝度: EV12 (常温・ISO100)、撮影モード: M、RF24-105mm F4-7.1 IS STM 使用、シャッターボタン操作による静止画撮影時、AF 方式: 1 点 AF (中央)、AF 動作: ワンショット AF 時。

3. 多様な制作ニーズに対応する動画性能

- ・新 CMOS センサーの高速信号読み出しと、映像エンジン「DIGIC X」の高速処理により、6K/60P 動画の RAW データ (12bit) による内部記録を実現。
- ・4K/120P ハイフレームレート動画撮影を実現。滑らかな映像を撮影することができ、4K の鮮明さはそのままに、きめ細やかで自然なスローモーション効果を得ることが可能。
- ・6K の豊富なデータから、高画質な 4K 動画を生成可能。クロップ (切り出し) なしのオーバーサンプリングによる 4K/60P 動画を実現し、モアレやノイズを低減した繊細な映像表現が可能。
- ・幅広い測距輝度範囲や高性能な被写体検出など「デュアルピクセル CMOS AF II」の優れたフォーカスコントロール性能により、効率的な撮影をサポート。
- ・キヤノン独自の Log ガンマ「Canon Log 3」を搭載。従来の「Canon Log」よりもハイライトの階調が飛びにくく、コントラストの高いシーンでも豊かな階調表現が可能。
- ・「CINEMA EOS SYSTEM」を除く EOS シリーズで初めて 30 分以上の連続撮影が可能。最長 6 時間※まで記録することができ、ドキュメンタリー撮影などの長時間の連続した撮影に対応。

※ ハイフレームレート時は最長 1 時間 30 分まで記録可能。動画記録サイズや撮影環境によっては、発熱やカード容量により、記録停止することがあります。

4. プロやハイアマチュアユーザーの映像制作を支える信頼性・操作性の追求

- ・高精細バリエーション液晶モニターを採用しながら、フラッグシップモデル「EOS-1D X Mark III」と同等の防じん・防滴性能※¹を実現。高い信頼性を備えながら、縦位置グリップ一体型ボディと、約 415 万ドットの高精細バリエーション液晶モニターにより、自由度の高い撮影が可能。
- ・耐衝撃性、耐久性が高く、電磁シールド効果にも優れたマグネシウム合金を外装に採用。高い剛性と軽量化を両立。カメラ本体のみの場合は、「EOS 5Ds」(2015 年 8 月発売)よりも軽量。バッテリー、CFexpress カードを含む場合においても、「EOS-1D X Mark III」の約 71%となる質量約 1,015g※²を達成。
- ・高度な通信機能を持つ「マルチアクセサリシュー※³」を新搭載。対応するアクセサリとの組み合わせにより、静止画撮影時の外部ストロボのコントロールや、動画撮影時の音声のデジタル入力、スマホとの接続によるネットワーク活用が可能。
- ・高速センサーにより EOS として初めて、全てのシャッター方式 (メカ/電子先幕/電子シャッター) で連続撮影時の調光制御に対応。電子シャッターによる 1/180 秒、最高約 15 コマ/秒連続撮影でのストロボ調光※⁴が可能。
- ・音に関する一括設定を行える「サイレントシャッター機能※⁵」を搭載。また、液晶モニターを常時消灯することもでき、すばやく音と光に配慮した撮影を行うことが可能。
- ・電源には「EOS-1D X Mark III」との共用が可能な「バッテリーパック LP-E19」を採用。
- ・CFexpress カード (Type B) と SD メモリーカード (UHS-II 対応) のデュアルスロットを搭載。
- ・「ロボティックカメラシステム CR-S700R」(2020 年 2 月発売)に対応。「ベースプレートキット CR-BP200」(2021 年 11 月下旬発売予定)を使用することで静止画の遠隔撮影操作が可能。



縦位置グリップ一体型ボディにバリエーション液晶モニターを搭載



マルチアクセサリシュー

※¹ 防じん・防滴性能を発揮させるため、電池室やカードスロットカバー、端子カバーなどの開閉部をしっかりと閉じ、アクセサリシューカバーを装着する必要があります。カメラは防じん・防滴に配慮した構造になっていますが、砂じんや水滴などの侵入を完全に防ぐことはできません。

※² CIPA ガイドラインに準拠。

※³ 新たに「指向性ステレオマイクrohon DM-E1D」(2022 年 3 月中旬発売予定)、「スピードライトトランスミッター ST-E10」(2021 年 11 月下旬発売予定)、「マルチアクセサリシューアダプター AD-E1」(2021 年 11 月下旬発売予定)、「スマートフォンリンクアダプター AD-P1」(2022 年 2 月下旬発売予定)に対応。2021 年 9 月 14 日時点。その他の対応アクセサリについては、キヤノン公式 HP をご参照ください。

※⁴ 2007 年以降発売の EL/EX シリーズのスピードライト装着時。「スピードライト 90EX」(2012 年 9 月発売)、「スピードライト 320EX」(2011 年 4 月発売)、「スピードライト 430EX II」(2008 年 7 月発売)、「スピードライト 580EX II」(2007 年 4 月発売)を除く。

※⁵ シャッター以外の音 (絞り/フォーカスレンズ駆動音等) が発生する場合があります。

<商品構成（キット内容）>

名称	内容
EOS R3・ボディ	EOS R3

<“EOS R3”専用アクセサリ>

■ “大型アイカップ ER-hE”（別売り）

- ・大型アイカップによって外光の入光を抑制することで眼鏡着用時でも安定した視線入力が可能。
- ・カップ部が 360° のレボルビング可能で、縦位置撮影にも対応。
- ・屋外でファインダーが見えにくい場合にも有効。

製品名	希望小売価格（税込）	発売日
大型アイカップ ER-hE	5,500 円	2021 年 11 月下旬

<レンズ交換式カメラの市場動向>

2020 年の世界のカメラ市場におけるレンズ交換式カメラの販売台数は、約 560 万台となりました。2021 年は、約 600 万台を見込んでいます。（キヤノン調べ）

<主な製品仕様>

各モデルの製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。

<ご参考：東京 2020 大会で“EOS R3”の試作機によるテスト撮影を実施>

キヤノンは、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京 2020 大会）の「ゴールドパートナー」（スチルカメラおよびデスクトップ・プリンター）です。大会期間中、キヤノンは、“EOS R3”の試作機を一部のプロフォトグラファーに活用いただき、高い性能と信頼性が求められる報道の現場において、高い評価を得ました。“EOS R3”のテスト撮影を行った通信社・フォトエージェンシーのコメントをご紹介します。

■ ロイター通信社 Global Pictures Production Editor/Kevin Coombs（ケビン・クームス）氏

東京 2020 大会は、世界中の何十億人もの人々に、いち早く映像を配信するロイターの強みを示す場となりました。“EOS R3”は、経験豊富なロイターのプロフォトグラファーに新しい撮影体験を提供しました。高精細な電子ビューファインダーにより、被写体を正確に捉えることができ、サイレントシャッター機能により、選手の集中を妨げることなく撮影することができました。さらに、水泳の撮影では、水の透明感や陰影を見事に表現していました。“EOS R3”の解像度やシャープネスは、報道やスポーツ写真に最適であり、また、手にフィットするボディは「EOS-1DX Mark III」と「EOS R5」を掛け合わせたような使用感でした。オリンピックのようなベストな機会と、“EOS R3”というベストカメラ、そしてキヤノンスタッフによるサービスサポートを通じて、ロイターはオリンピックでもう一つの金字塔を打ち立てました。

■ ゲットイイメージズ社 VP of Global Editorial Operations/Michael Heiman（マイケル・ヘイマン）氏

ゲットイイメージズのプロフォトグラファーは、東京 2020 大会において、“EOS R3”のテスト撮影を行い、世界中に“EOS R3”で撮影された写真を配信しました。“EOS R3”は、高速連写や、素晴らしいオートフォーカス、素早く写真を共有できるネットワーク機能など、スポーツ写真に適したカメラであり、世界最大のスポーツイベントにおいて、大きな可能性を持つカメラであることを証明しました。“EOS R3”は、すぐに使いこなすことができ、革新的な機能が満載で、キヤノンのレンズと組み合わせることで素晴らしい写真を撮影することができます。また、撮影機材に加え、キヤノンのサービスサポートは、専門知識やサービス面などにおいて世界トップクラスであり、今後も、オリンピックをはじめとするスポーツイベントでのキヤノンとのパートナーシップに期待しています。